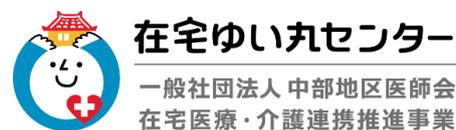


療養生活支援多職種研修会 アンケート集計結果報告書



日 時：令和6年9月19日（木）19：00～21：00

開催方法：会場（ちゃたんニライセンター） + オンライン（Zoom）開催

テ ー マ：「在宅療養生活における口腔・栄養管理～入退院を繰り返さないための多職種連携～」

周知方法：開催案内文書の郵送、当センターHP掲載、メーリングリスト一斉送信、FAX送信

周知範囲：中部地区12市町村の医療介護関係施設（約1750か所）、他

●参加者数

会場 参加人数：60名 アンケート回答数：55名（会場回答率：約92%）

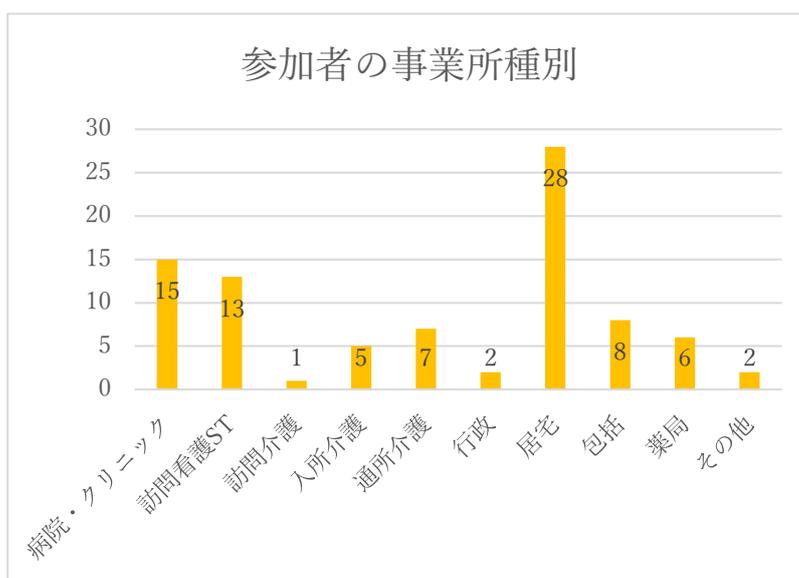
Zoom 参加アカウント数：41アカウント

アンケート回答数：32アカウント（Zoom回答率：約78%）

合計 参加人数：60名（会場）+41名（Zoom）=101名 トータル参加人数 101名
アンケート回答率：86%

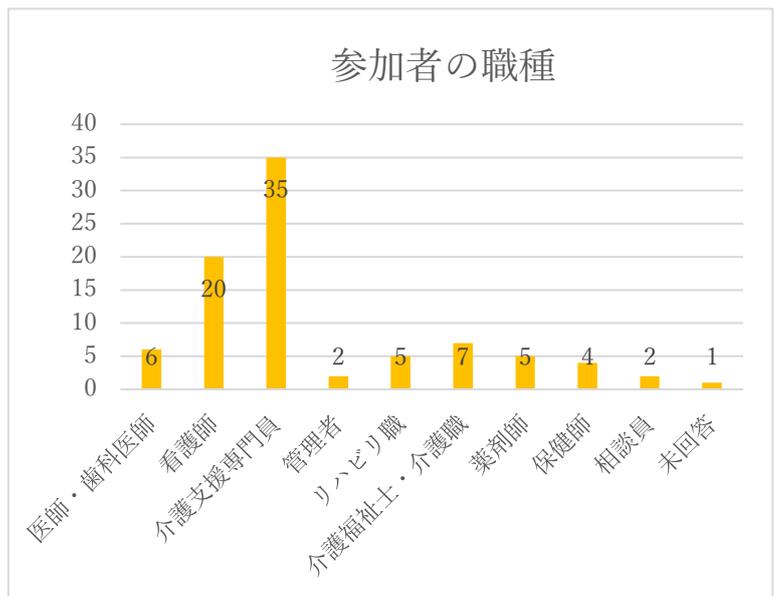
●参加者の事業所種別（n=87）

	数	割合
病院・クリニック	15	17.2%
訪問看護ST	13	14.9%
訪問介護	1	1.1%
入所介護	5	5.7%
通所介護	7	8.0%
行政	2	2.3%
居宅	28	32.2%
包括	8	9.2%
薬局	6	6.9%
その他	2	2.3%
計	87	100.0%



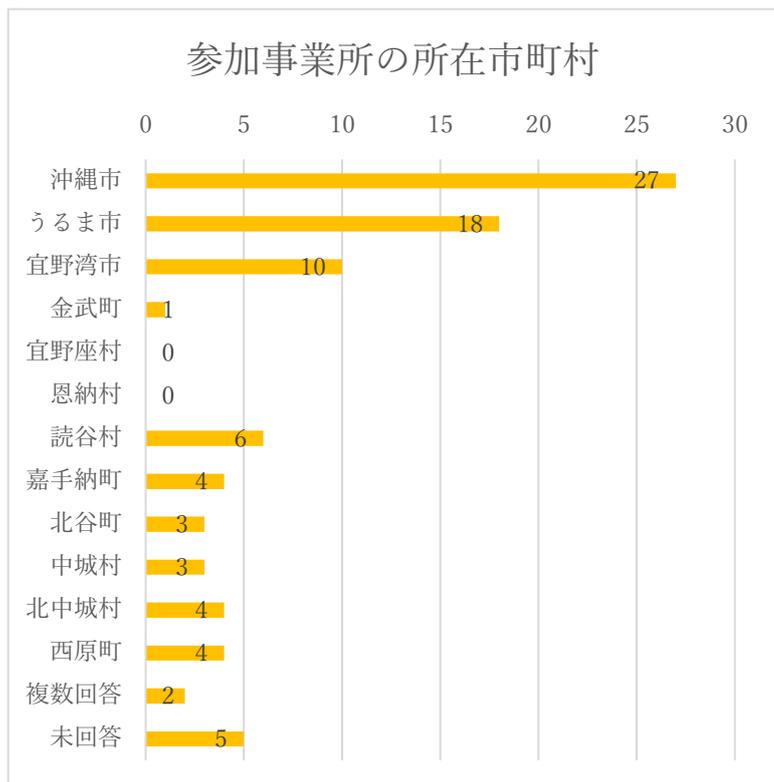
●参加者の職種 (n=87)

	数	割合
医師・歯科医師	6	6.9%
看護師	20	23.0%
介護支援専門員	35	40.2%
管理者	2	2.3%
リハビリ職	5	5.7%
介護福祉士・介護職	7	8.0%
薬剤師	5	5.7%
保健師	4	4.6%
相談員	2	2.3%
未回答	1	1.1%
計	87	100.0%



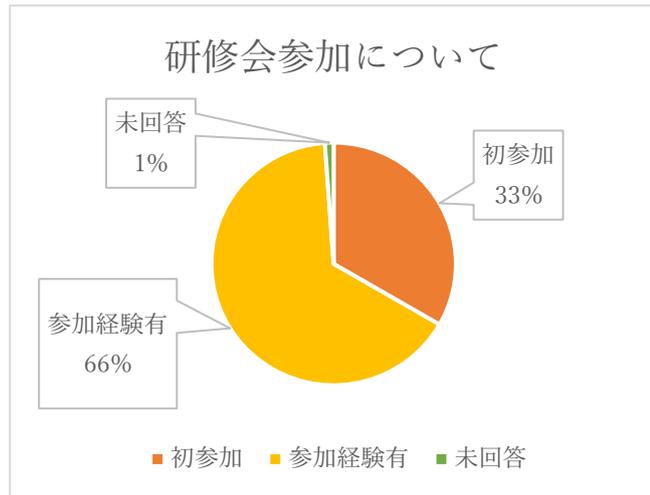
●参加事業所の所在市町村 (n=87)

	数	割合
沖縄市	27	31.0%
うるま市	18	20.7%
宜野湾市	10	11.5%
金武町	1	1.1%
宜野座村	0	0.0%
恩納村	0	0.0%
読谷村	6	6.9%
嘉手納町	4	4.6%
北谷町	3	3.4%
中城村	3	3.4%
北中城村	4	4.6%
西原町	4	0.0%
複数回答	2	4.4%
未回答	5	0.0%
計	87	100.0%



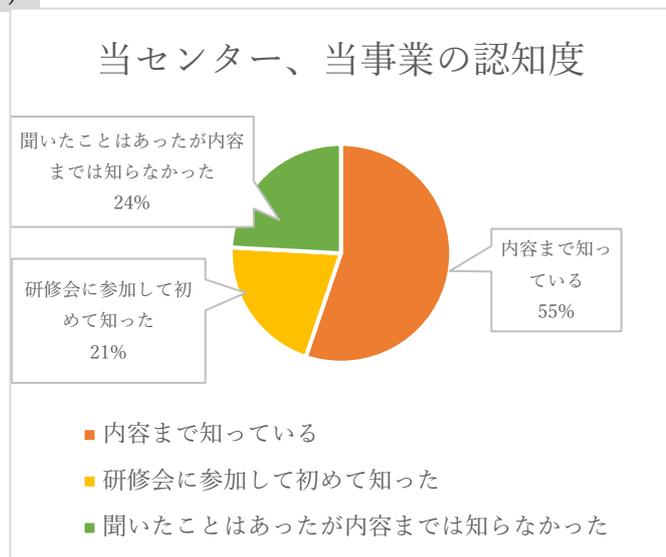
●研修会への参加について (n=87)

	数	割合
初めて参加した	29	33.3%
参加したことがある	57	65.5%
未回答	1	1.1%
計	87	100.0%



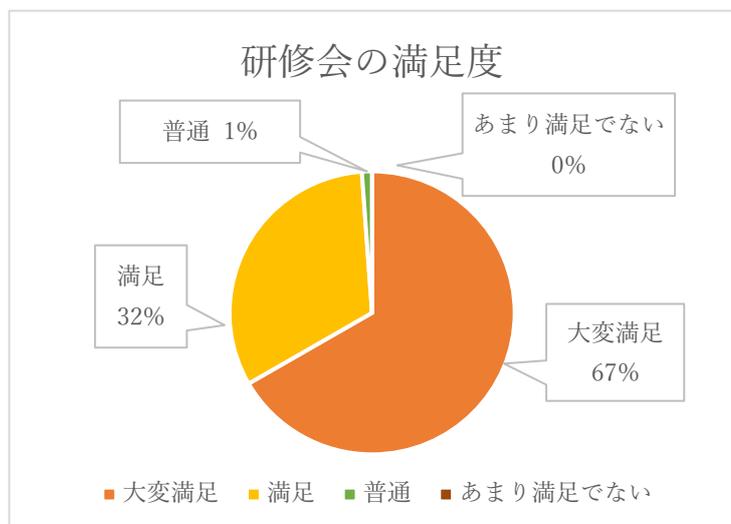
●当センター、当事業の認知度 (n=87)

	数	割合
内容まで知っている	48	55.2%
内容は知らなかった	18	20.7%
聞いたことはあったが 内容までは知らなかった	21	24.1%
計	87	100.0%



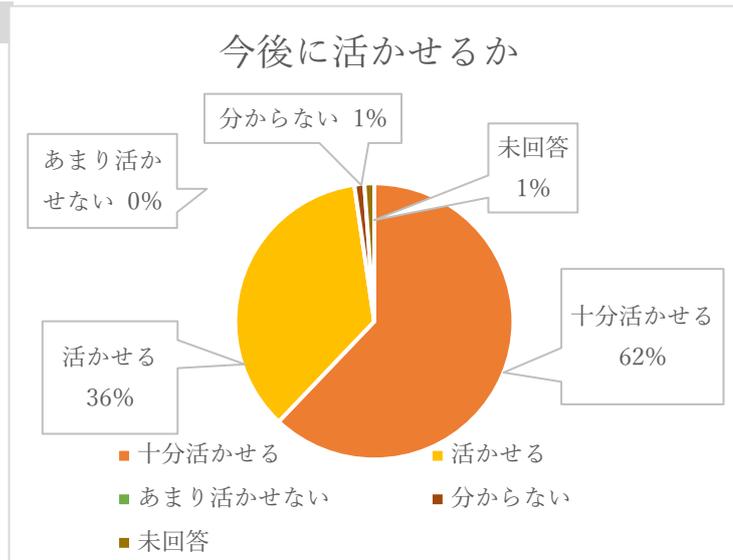
●研修会の満足度 (n=87)

	数	割合
大変満足	58	66.7%
満足	28	32.2%
普通	1	1.1%
あまり満足でない	0	0.0%
計	87	100.0%



●今後の業務に活かせるか (n=87)

	数	割合
十分活かせる	54	62.1%
活かせる	31	35.6%
あまり活かせない	0	0.0%
分からない	1	1.1%
未回答	1	1.1%
計	87	100.0%



●記述式アンケート結果

【当研修会の感想】

1	他職種の発表・意見交換があることで、色んな気づき学びがあり、とてもいい機会でした。
2	病院としても、入院前の情報を収集して退院時に活かせる取り組みを行いたい。
3	グループワークを通して、他職種の方たちの意見やアプローチの仕方も聞くことができ大変勉強になりました。
4	色々な職種の方の意見がきけて、新しい発見がたくさんありました。貴重な時間、研修としていただきありがとうございました。
5	グループワークができて良かったです。
6	口腔の共通の評価ツール、つかってみたいです。直接フロアでドクターが診る。スタッフへのアドバイスか直接することで交流ができる。数字で表す。目で見るとは大事ですね。
7	すごく多くのことを得ました。ありがとうございました。大変有益でした。
8	グループワーク内に多職種の方がいて、特に急性期の看護師さんからの在宅時の情報、状況のより詳しい内容がほしいという意見が聞けてよかった。
9	多職種で関わることが大事だと思いました。
10	口腔ケアが必要な事は知っていたが、口腔内の確認が十分できていなかった事が再確認できました。
11	ためになり明日から取り入れたいと思いました。
12	初めて参加しましたがいい勉強になりました。
13	今まで利用者の支援分野としては盲点であった口腔ケアについて具体的にどういう事をしているか、どう成果を出しているか勉強になりました。
14	各専門職からアセスメント視点がちがいで、勉強になったそれぞれの視点からアセスメントにいかしていきたい
15	職種によって視点が違うので、新しい気づきがありとても楽しかったです。

16	普段から口腔ケア、栄養状態を見ることは大切だというのは分かっていましたが、今回の研修で自分がどれだけみれていなかったのかというのを痛感しました。今日の研修を明日からの業務に活かしていきたいです。
17	多職種との連携についての大切さを知ることができた
18	多職種の視点、みなさんの経験で、症例をいろいろな角度から知ることが出来て、とても勉強になりました！ありがとうございます。
19	勉強になりました。GWはファシリテーターありでとてもスムーズでした。
20	連携をはかる為の参考になった。
21	色んな職種の方の意見を聞けてとても良かったです。
22	口腔ケアの視点はあまりなかった。”姿勢”も大切であることも大変勉強になりました。
23	講義もグループワークでも明日から生かせる内容でした
24	多職種から色々な情報を教えてもらうとてもいい機会になりました。口腔内や口腔ケアに関心をもつとともに医師へも口腔ケア（歯科医）の介入依頼をしていきたいと思えます。地域へのサマリーにも口腔ケアをつなげていきたいです。研修ありがとうございました。
25	支援の進め方、その他の性格、生活歴など見ながら介入して専門的な支援へとつなげていきたいと思いました。
26	それぞれ他職種の専門的な視点で見るポイントが違うので、様々なアプローチやアセスメントを学ぶ事ができました。
27	多職種の方々の視点からみる角度によっていろいろ学ぶことができました。明日からの私に活かしていきたいと思いました。
28	訪問栄養指導の事例ものすごく参考になった。KTBC 評価シート導入したい。
29	口腔ケアの判断方法、評価方法があれば、他のスタッフや業種にも伝わりやすく、よりくわしいアセスがしやすいと思った。
30	多職種が参加されており、それぞれの専門性を持った意見交換を活発に行う事ができとても実り多い研修となりました。
31	口の中を見る、出来ていそうで出来ない事など気づきになった。
32	グループに医師が入っている事で、とても多くの学びがあった。
33	実践に結びつきやすい内容でした。
34	今回の研修で学んだことを明日からの業務に活かせるように取り組みます。
35	初めての分野だったので少し難しく感じた
36	情報共有、各関係者との連携の大切さ、入院した利用者さんの情報提供（デイサービス）（病院へ）実施していきたい。
37	KTBC 活用したいと思えます。
38	口腔、栄養管理についてあまり意識してアセスメントできていなかったのが今回の研修で見方がかわると思えます。情報共有をしっかりとってしていきたい。
39	3つとも素晴らしいとりくみだった。3人のとりくみをもって世の中に発信できない

	か？
40	食事量が落ちてきた利用者があるので、今日の研修はとても参考になりました。ありがとうございます。
41	生きていくために、食事はとても大切なことなので、利用者さんが美味しく食事をムセなく食べていけるような支援、サポートができる体制作りをしていきたいと思いました。
42	多職種が増えて色々な職種の意見を聞ける場があるのでよかった。誤嚥性肺炎後入退院が多いので意見は活かせると思う。
43	対面で多くの方と話すことができ大変勉強になり、気づきが多かったです。
44	とても勉強になりました。色々聞きたいことがあったので、質疑応答があれば尚良かったと思います。
45	実践事例がきける事で、身近な問題だと感じる事ができた。
46	とても勉強になりました。各講師のお話しをもう少しゆっくり聞けると良かったと思います。事例が少し長いかも？ポイントをしばっても良かったかと思います。
47	改めて口腔ケアの大切さを実感できた。利用者様の口腔ケアが出来る環境を創ってきたい。
48	多職種の視点から評価、アプローチ、専門職に繋ぐ等、いろいろなことができると知りました。KTBCには初めて知ったので、明日から活用したいです。
49	薬剤師さんの服薬についての意見とても参考になりました。
50	口腔、栄養の両方から話が聞くことが出来て、新たな視点が持てた。グループワークでリアルな意見交換が出来、明日からのケアにつなげたいことと、関係者で共有したいと感じた。
51	口腔ケアと栄養管理の重要性を再認識できる研修でした、重要性は理解しているものの、登壇者発表やグループワークを通じて具体的な方法を知ることができました。ありがとうございました。
52	お疲れ様でした。口腔、栄養関係は普段聞き取りが弱いと感じる部分でKTチャートを見てみて、私自身が口腔、栄養関係に注視できるようにしたいと思いました。
53	運営ありがとうございました。専門外の内容でしたが評価ツールや実践を聞くことができ明日からの参考になりました。
54	今回ファシリタせていただきましたが、うまくできず反省しております。グループワークのトークテーマは外れてしまった気がしますが個人的には収穫もあった。
55	他職種の視点・それぞれの意見が聞けて明日からの訪問に生かして、利用者さんが安心して在宅での生活が長く続けられるよう関わっていきたいです。貴重な講習でした。準備期間など大変だったと思いますが、開催ありがとうございました。
56	グループワークで出た意見が、もう出尽くしたといった感じがあったのに、発表になると他のグループからの違った意見もあり、やはりたくさんの方、たくさんの専門職がいると同じ情報でもアプローチが増えると感じました。これからも同職に聞くだけでなく、他の職種にも相談をしていこうと思いました。

57	ゲストの講義が短くて、もっと長く聞きたかったです。 特に評価部分で今後、訪問したときに使えるようになりたいと思いました。
58	今回は、ファシリテーターの具志堅さんが上手に進行をしてくださり、他職種の方とざっくばらんに意見交換が出来て非常に有意義でよかったです。
59	各専門職の意見が聞け、とてもためになりました。
60	お疲れ様でした。大変貴重な研修会に参加できたことを嬉しく思っています。どうもありがとうございました。明日からの支援に全力で活かしていきたいと思います。
61	観察すること、みることの大切さの原点を教えていただいた。
62	今回、zoomでの参加でしたが、グループワークの時に少人数だったので、緊張は少なかったです。色んな意見が聞けなかったのは残念です。ファシリテーターが居たのでとても助かり、進行もスムーズでした。ありがとうございました。
63	講話の上あごが汚れている例を見て衝撃を受けました。口腔ケアは歯磨きだけではないと実感しました。 また、食事をとれない理由は嚥下だけではなく様々な要因にアプローチしていくことで、食事がとれるようになり全身状態の改善につながると分かりました。 初めて知ることも多く有意義な研修になりました。
64	ケアマネとして関わった際に、本人や家族に確認まではしているものの、きちんと出来ているのか、登壇の方でもあったように歯を見るのではなく、口腔内全体をしっかりと見る事が大事と思った。ご家族様へのアドバイスとしても今回の内容を伝えられるようにしたいと思う。
65	口腔に関しての重要性が理解できた。食の根幹であるため、認識が変化した。
66	色々な気づきがあります。忙しさに流され初歩的な確認観察を怠っていたことに改めて感じます。
67	口腔ケアの重要性を改めて認識することが出来、大変意義ある研修でした。

【開催して欲しいテーマや、その他ご要望】

1	転倒対策。いろんな人と話したいです。
2	傾聴
3	嚥下食
4	身よりのない方の入退院について
5	認知症関わり
6	食事、ベッド、車イス等のポジショニングについて勉強会をしてほしいです。 とても大切だけど、在宅で知っている人はすくない。
7	実際の食事形態の変更の進め方やどのような食形態があるかなどくわしく知りたいです。
8	薬剤師とはあまり関係ないであろう分野を学びたい。またそこからの学びがありそう。
9	認知所の方への支援（サービスにつなげる方法。気をつけるポイント。）

10	本人と家族の意向が違う支援について
11	心不全、在宅医療介護連携パンデミックにそなえる
12	認知症、独居の方へのアプローチ、小児難病、家族への関わり
13	くりかえすことが重要だと感じました。日々の知識の更新が必要。
14	マイナ保険証の取り扱い
15	急性期、終末期の事例など
16	難病支援、がん末期の関わり方
17	災害時の対応について
18	意思決定支援について
19	生活リズムへのアセスメントの視点について。入院のように管理できない本人のリズムに合わせた指導のポイントなど共有しながら理想だけで済ませない。
20	身寄りのない方の支援
21	多職種連携、ヤングケアラー
22	認知症の深掘りの話、聞いてみたいです。
23	認知症 テーマに沿った多職種連携
24	お見取りのケア（ご本人、ご家族）・改めて介護。医療保険制度について。
25	ケアマネだが、医療職（医師、看護師）とのコミュニケーションが苦手になってしまう部分があるので、どのような連携が理想なのか話を聞きたい。グループワークではどういったらいいのか自分の話がまとまらないので。特に病院の医療職の話が聞きたい。ちょっと冷たくというか忙しく感じられて話がしにくいイメージがある。
26	今回のような場を設けていただけると歯科の立場からも非常に助かります。 （なかなか多職種連携といいながら、声をかけていただけないと動きづらい場面が多いと感じているので）
27	認知症支援について
28	研修のテーマとしては特に要望は無いのですが、開催場所をうるま市でも行うのであれば会場の参加もしたいと思います。
29	もっと口腔の評価や練習内容を知りたいです

●結果、考察

高齢者の療養生活において、入退院を繰り返すことが課題となっており、その一因として口腔機能の低下や栄養状態の悪化が挙げられる。これを踏まえ、「口腔・栄養管理」をテーマにした多職種研修会を開催した。本研修会では、療養者本人や家族、そして多職種が果たすべき役割や連携方法について学ぶことで、入退院の繰り返しを減らし、高齢者が安定した療養生活を続けられることを目的とした。

今回の研修はハイブリッド形式で開催。会場 60 名・Zoom 41 名の合計 101 名の参加者のうち、初参加者は全体の 33.3% (29 名) だった。グループワークでは、会場・Zoom 共にファシリテーターを配置した事もあり、参加者から「とてもスムーズでした」「他職種の方とざっくばらんに意見

交換が出来て非常に有意義でよかった」等、有意義な意見交換を行えたと考えられる。

アンケート結果から、「大変満足」「満足」合わせて98%（86名）の回答があった。また、今後の業務に「十分活かせる」・「活かせる」合わせて97.7%（85名）の回答があった。研修会への満足度、今後の業務への活用意欲の高さが伺える。

また当研修会に対して、「他職種の発表・意見交換があることで、色々な気づき学びがあり、とてもいい機会だった」「実践事例がきけた事で、身近な問題だと感じる事できた」、「食事量が減っている利用者への支援方法も考えさせられる内容だった」「この研修で学んだ内容を明日からの業務に取り入れたい」、「実践例に基づく講義が身近な問題と感じられた」等、多くのご意見・ご感想をいただき、本研修会の目的は達成されたと考えられる。その一方で、「講義の時間が短くもっと話を聞きたかった」、「Zoom参加で、グループが少人数だったため、色々な意見が聞けなかったのが残念」といった声もあり、これらの反省点を次回に活かし、参加者の満足度を高める意見交換の工夫、講義のあり方に関する工夫を検討したい。

＼会場の様子①／



＼会場の様子②／



＼グループワークの様子／



☆各グループワークの記録まとめ☆

	会場参加	Zoom 参加
<p>①現在の状況と、今後の事を考え(想像し)、A さんの安定した療養生活を継続させるために、自身の専門性をもって何に注目し、どのように関われると思いますか？</p> <p>それにより、口腔・栄養管理の工夫にどのように繋がると思えますか？</p> <p>登壇者発表やグループ内の意見交換で、新たな気づきや再確認できた事項などはありましたか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・OHAT 評価を活用し、口臭や歯の状態を確認。義歯の適合も確認が必要。 ・食欲はあり、昔と変わらない食形態を維持。薬が飲めているかも確認。 ・家でのご飯が中心で、栄養バランスや食形態の確認が必要。 ・うがいや口腔マッサージ、歯間ブラシの指導。口腔内を清潔に保つため、上あごまでしっかり確認。 ・食事の内容を改善し、家族や専門職と連携。 ・デイサービスの利用を増やし、孤立を防ぐ。 ・奥様との生活を継続し、入院を繰り返さないようにする。 ・本人の思いを引き出し、ケアプランに反映。 ・訪問歯科や訪問看護、主治医との連携を強化。 ・デイサービスの利用を、週 1 回から週 5 回への増加を検討し、社会的孤立を防ぐ。 ・妹や家族の介入を促し、内服や口腔ケアの声かけを行う。 ・嚥下評価や誤嚥性肺炎のリスク管理、姿勢の見直し、栄養補助食品の導入が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能低下と嚥下機能低下が進行し、誤嚥性肺炎のリスクが高い。 ・食事が困難になり、看取り状態に近づいている。 ・口腔ケアが利用者任せで不十分。特に口臭が強いケースでは口腔ケアの徹底が必要。 ・デイサービスで口腔状態を発見し、相談員やケアマネ、かかりつけ医と連携して対応する。 ・歯磨きや食後のブラッシングが重要だが、習慣化が失われている場合がある。視覚的に歯ブラシが見える位置に置くなどの工夫が推奨される。 ・在宅支援では、デイサービス、訪問歯科、民生委員などとの連携が重要。必要であれば訪問診療も視野に入れる。 ・訪問系サービスの拒否が見られる場合は、通所介護を増やし、食事環境の整備や評価を進める。 <p>フレイル予防と社会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉じこもりや活動低下によるフレイルの進行が懸念される。社会参加を促すことが重要。建築関係の得意分野を活かした地域参加が考えられる。 ・配食サービスや栄養管理の相談が必要。高齢者の栄養状態改善に向け、市役所の管理栄養士や訪問指導も検討。 ・口腔機能や食事形状の評価を行い、適切な食事環境を整えることが重要。 ・内服薬の影響による口腔機能低下や誤嚥性肺炎リスクの増加が懸

<p>②明日から取り組めることを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・KTBC 評価シートを使用して口腔ケアと環境を確認。 ・ケアプランに KTBC を組み込み、抜けのないアセスメントを実施。 ・口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎のリスクを評価・予防。 ・家族やデイサービスで口腔ケアの指導・確認を実施。 ・ベッド上での姿勢や歯ブラシの使用法を指導し、歯の健康を保つ。 ・薬の形態や服用のしやすさ、薬効を確認し、必要に応じて調整。 ・配食サービスを活用して栄養バランスを改善。 ・飲み込みをよくする食事形態や栄養の確保を検討。 ・退院後も自宅で適切な支援が続けられるよう、ケアマネや医療チームと連携。 ・周囲の職員や家族にも、ケアや評価の重要性を周知。 ・利用者との対話を重視し、支援方法を模索。 ・多職種の意見を聞き、気づきを得る。 	<p>念され、薬剤師との相談が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別に見に行く」という姿勢を患者に周知し、生活に寄り添いながら連携を強化。 ・忙しい中でも肺炎予防に努め、栄養や口腔ケアの視点を取り入れる。 ・ツールの活用 ・OHAT チャートを活用し、口腔ケアや健康状態の判断基準を明確にする。明日から実践する。 ・サービスに頼るだけでなく、患者の能力を引き出し、声掛けを行いながら再び活動できるよう支援する。これを明日から実践。 ・理学療法士として運動指導を行いながら、管理栄養士に相談して栄養面の知識を補完する。 ・ネットワークを活かして栄養相談を進める。 ・内服薬の把握によって、口腔機能や栄養状態の低下を予防。薬剤師との相談を取り入れ、サービス事業所と連携して患者や家族を支える体制を整える。 ・明日から「原点」に立ち返り、観察力を磨き、患者の状態をより注意深く見守る。
---------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※今回は、

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・訪問看護師・保健師・歯科衛生士・栄養士・管理栄養士介護支援専門員・介護職・訪問介護職・医療相談員・生活相談員・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・サービス提供責任者・施設管理者の方々が参加しました。



